

<b>千里金蘭大学建学の精神</b>
志を同じくするものが協力すれば、何事でもなしとげることができる。 その言葉は、蘭の花のようにかぐわしい。
<b>大学の教育理念・目的（教育目的）</b>
本学は、建学の精神に則り、豊かな教養と深い専門知識を有し、高い志のもと、社会に貢献し信頼される人材を養成することを目的とする。
<b>大学の教育目標</b>
千里金蘭大学の教育目的を実現するため、自ら考え自ら学ぶ姿勢を身につけることで、他者への共感・他者との協調・他者への奉仕を実践し、持続可能な社会の構築に貢献できる、すなわち自らを育て自立することのできる女性の育成を目標とする。

<b>生活科学部食物栄養学科 教育研究上の目的（人材養成の目的）</b>	
豊かな教養と人間性を備えるとともに、食、栄養及び健康に関する専門知識を有し、食の分野から、地域社会の人々の健康づくりに貢献できる人材の育成を目的とする。	
<b>生活科学部食物栄養学科 教育目標</b>	
<知識・技能>	(1) 食の分野から人々の健康づくりに貢献できる豊かな教養と高い専門知識・技能を養い、総合的に活用する力を養う。
<思考力>	(2) 科学的根拠に基づいて判断できる思考力と自己学習能力を身につけ、生涯にわたって食に携わる者として学び続ける能力を養う。
<実践力>	(3) 管理栄養士として幅広い領域の実践力、マネジメント能力を有し、他者と協働して社会で貢献できる力を養う。

### 生活科学部 食物栄養学科 卒業認定・学位授与の方針 【ディプロマ・ポリシー】

食物栄養学科では、豊かな教養と人間性を備えるとともに、食、栄養及び健康に関する専門知識を有し、食の分野から、地域社会の人々の健康づくりに貢献できる人材を育成するために、所定の課程を修め、126単位の単位修得と必修等の条件を充たしたうえで、次のような目標を達成した者に学位（栄養学）を授与する。		
<知識・技能>	教養・専門性・総合力	自らを育て自立した女性として、幅広く深い教養を修めるとともに、食、栄養及び健康に関する専門的知識や技術を修得し、総合的に活用する力を身につけている。
<思考力>	問題解決・発見力	多様化する社会や人々の健康問題に対し、自らの価値観及び倫理観に基づき解決する力を身につけている。
	論理的・批判的思考力	食、栄養及び健康に関する諸問題に対し、自身の考えを論理的かつ柔軟に組み立てる能力を身につけている。
	客観的思考力	さまざまな事象に対し、科学的・客観的視野に立って評価する能力を身につけている。
	生涯学習力	食を通じた人々の健康への貢献のために、常に新しい技術や知識を学び続ける力を身につけている。
<実践力>	自律的活動力	主体的に行動する力を身につけている。
	人間関係形成力	人権や生命の尊厳について深く理解し、人々のさまざまなライフステージに応じて協調した行動がとれる力を身につけている。
	社会参画力	市民社会の一員として、臨床、福祉、学校、行政などの現場をはじめとする地域社会に貢献できる力を身につけている。

## 生活科学部 食物栄養学科 教育課程編成の方針【カリキュラム・ポリシー】

<p>食物栄養学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる目標を達成するために、教養教育科目、専門科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講する。教育課程については、カリキュラム・マップを用いてその体系性や構造を明示する。教育内容、教育方法、学修成果の評価については、以下のように方針を定める。</p>		
1. 教育内容	(1)	高大接続を円滑なものとするため、1年次に初年次教育を行う。
	(2)	深く幅広い知識の修得と豊かな人間性や倫理観の涵養のため、歴史、文化、科学、法律、語学、情報等についての知識・技能を学ぶ。
	(3)	自らを育て自立した女性の自己実現に寄与するため、「女性のライフサイエンス」、「社会貢献論」を必修科目として配置する。
	(4)	食、栄養及び健康に関する専門知識を修得し、人々のライフステージに応じた栄養指導力や給食運営力を養うため、専門科目を体系的に編成する。
	(5)	臨床、福祉、学校、行政などの現場において、市民生活の向上に寄与できる人材を育成するため、栄養士、管理栄養士、栄養教諭、フードスペシャリストの資格を有する専門職者の育成にふさわしい専門科目を配置する。
	(6)	臨地実習を通じて、大学で学修した知識と現場で得た知識のつながりを理解し、問題発見・問題解決の方法の修得を図る。
	(7)	総合演習を通じて、科学的根拠や方法論を総合的に応用し、栄養評価や管理が行える能力を養う。
2. 教育方法	(1)	講義、演習、実習を通して双方向的授業、問題解決型授業を積極的に導入する。具体的には、グループワーク、ディスカッション、栄養・食事計画の立案を用い、多方向的な教育を行う。
	(2)	初年次の基礎ゼミにおいては、知識修得を図るため、また、自己課題意識の形成を図るために、学生数を適切な規模に維持する。
	(3)	教育効果を十分にあげられるよう、クラス規模の調整、余裕をもった時間割編成上の配慮、課題の提示、技能の自主練習時間の確保等、授業時間外における学修を充実させる取り組みを行う。
	(4)	臨地実習には履修条件を設け、必要な知識や技能の修得の促進を図るとともに、学生が自覚をもって実習に臨む態度を育成する。
	(5)	4年次に、特別演習を通じて管理栄養士としての到達度について教員、学生自身双方から評価する。
3. 学修成果の評価	(1)	成績評価の基準が規定されており、学生ハンドブックやシラバスへ明記して周知を図る。
	(2)	成績評価の妥当性は必要に応じて学科会議や教授会で審議し、公正に評価が行われるよう配慮する。

## 生活科学部 食物栄養学科 入学者選抜の方針【アドミッション・ポリシー】

<p>食物栄養学科は、豊かな教養と人間性を備えるとともに、食、栄養及び健康に関する専門知識を有し、食の分野から、地域社会の人々の健康づくりに貢献できる人材の育成を教育目的に掲げている。そのような教育目的の下、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める人材を育成するために、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲等を備えた学生を求める。</p>	
(1)	食、栄養及び人々の健康に強い興味を持つ人
(2)	人々の健康づくりに向け、他者と目的を共有し協働できる人
(3)	食を通じた健康の増進と社会への貢献に意欲的に取り組む人
(4)	高等学校までの履修内容のうち、読解力や表現力の基盤として「国語」（国語総合）を、論理的・科学的思考力の基盤として「生物」、「化学」の基礎知識を身につけている人